



ホームの放送が「おさん!」ちゃちゃちゃで

同時に3つの放送が・・・?

先日、蘇我駅1番線から千葉方面行きの電車に乗り、接続の2番線の電車が遅れていた時のことです。遅れている2番線の電車について、駅員の肉声による放送が流されましたが、その重要な放送「2番線の京葉線東京行きは、外房線内〇〇付近で〇〇があった影響で、現在〇〇駅を〇〇分遅れで発車しています。当駅到着は〇〇分頃を

予定しています」・・・が流れている最中に1番線と2番線の列車について(車両や停車駅の案内等)のこの時どうでもいい自動放送かなりの音量で延々と流れていて、一番重要な〇〇部分が聞こえませんでした。というか、同時に流れた放送3つとも、耳に入りませんでした。

こうした異常時やダイヤ乱れの時くらい、不要な他の自動放送をOFFにする対応は出来

ないものでしょうか。以前は確かに出来たはずですが、現在は機械的に出来なくなっているのでしょうか。この3つの放送に更に発車ベルや車掌の放送までかぶる場面もありました。

サービス面でどうなの?

京葉線内の例えば新浦安駅や新木場駅でも、同様のごちゃごちゃ放送がよく流れます。どちらの番線の放送なのか、不慣れな利用者は間違えるのでは?と思います。人間は同時に2つも3つも放送を聞き分けられないはず。だとしたらそれは雑音でしかありません!サービス面は勿論、安全面においても問題あり!では?

うたてつ ノススメ27

終着駅 (奥村チヨ) 1971年12月

落ち葉の舞い散る停車場は
悲しい女の吹き溜まり
だから今日も一人 明日も一人
涙を捨てて来る
真冬に裸足は冷たかろう
大きな荷物は重たかろう
なのに今日も一人 明日も一人
過去から逃げてくる
一度離したら 二度とつかめない
愛という名の暖かい心の鍵は
最終列車が着くたびに
よく似た女が降りて来る
そして今日も一人 明日も一人
過去から逃げてくる

歌詞は1番のみ掲載。作詞は70年代に入って頭角を現す千家利也。この人の詞は非常に抽象的なものも多く、この曲も情景を想像すると、かなりシュールな感じも受ける。恋に破れた女たちが、逃げてきた末に行き着く終着駅・・・過去の自分を捨てるための旅の終りという設定だろうか。

作曲は、のちに夫となる浜圭介。坦々と進んでいくメロディは、この歌手とこの詞によく合っていると思う。この歌手の歌唱の特徴は、あまり口を開けないで歌うことである。それでこれだけ歌いこなせるというのは、かなりの肺活量と、天性の歌の上手さだと思う。

1965年デビューで、これが25枚目のシングル。アイドル時代から脱却し、イメージチェンジの曲であったが、これも大ヒットし、3回目の紅白出場も果たした。コケティッシュな魅力で、和製シルビーバルタンとして売り出されたが、歌の上手さでダイアナロスを引き合いに出す人もいる。

白石彰さん、お疲れさまでした。



銚子運輸区の車掌、白石彰さんが64歳の誕生日である1月の前月に退職されました。1978年新小岩操駅からスタートした鉄道人生、お疲れさまでした。ゆっくり休んで下さいね!